05 ものつくり教育 探究する力を向上させる

普通科専一の学校になった私達日駒こそ、“ものつくりの楽しさ体験”の教育を大切に守っていかなければならない、と思っています。私達は長い教育経験のなかで、人間にだけ与えられた、‘つくる楽しさ体験’がどれ程大切なものか学んできました。今でも中学・高校の時代のなかで教育カリキュラムの中にものつくりの楽しさ体験をきちんと体系化し学習を進めていくことを忘れてはならない、と考えています。多くの時間を費やすことはできませんが、希望する生徒諸君には必ず応えられるカリキュラムを用意しています。

感性を磨く - 創る楽しみ、完成する喜び -

マナーを習得し食文化を考える

被服 / 食

箸袋の製作で基本的な縫い方、正しい箸使い、物を大切に扱う心を養います。また調理体験で食事を楽しむマナーと日本の食文化の継承を考えます。

●箸袋と調理

“句をつくる”

●俳句の創作

言葉えらびを味わう

言葉

俳句づくりを通して日本の伝統文化に親しむ。短い韻律の中で言葉選びをすることによって、日本語が含み持つ意味と音の魅力を体感する。言葉の選び方を知ると共に、語彙を広げ、感性情感を１７文字に表現します。

“浴衣をつくる”

●浴衣

●クロスステッチによる時計

衣文化の継承と創造

生地 / 反物

和裁による浴衣製作を行い、衣生活の変遷を通し伝統的な和服のなりたちや材料、着装の特徴を理解します。

造形力と感性を養う

手芸

「自分にとって価値のあるもの」をめざし羊毛フェルトでマスコットを製作します。羊毛フェルトを石鹸水でフェルト化する手法とニードルで形成する技法は素朴ですが造形力と観察力が必要となります。

“フェルトでマスコットをつくる”

●マスコット

使い手の気持ちに寄り添う

木

木材を扱ったものつくりは、アクセサリー・食器・看板・家具などの工芸品から木版画・木刻といった芸術品までさまざまあります。その中で私たちの身近にある「箸」と「椅子」の製作に取り組みます。箸は棒2本があれば良いものではありません。指先の延長のように自在に動かすためには、箸先一寸でぴたりと合わさる形状に削り出す必要があります。そして、椅子を「座る」という動作そのものから考えます。これらの過程で、単に加工技術を習得するだけではなく、ものつくりの奥深さを感じてもらいます。

“椅子をつくる”

●箸 ●椅子

“箸をつくる”

●iPad を利用したリズム創作

楽しく音楽表現

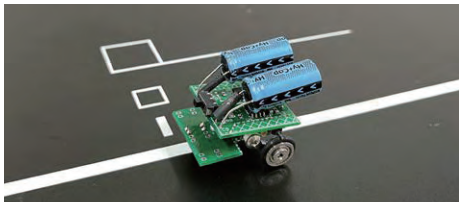
リズム創作

音楽のルールを学び、それを理解した上で自己の表現力や想像力を働かせて作品にする力を育てます。
音楽の基礎を学び、答えのない曲作りに試行錯誤し、自己のイメージを表現することで、その楽しさと難しさを体験します。

発想力も高める

電子工作

はんだ付けの基本技術をラジオ製作で学びます。次に真空管アンプ＆スピーカー、マイクロロボットの製作を通してコンピュータの回路や様々な機構システムを体験学習します。



●ラジオ　●真空管アンプ＆スピーカー　●マイクロロボット

機能性と美の両立を目ざす

土

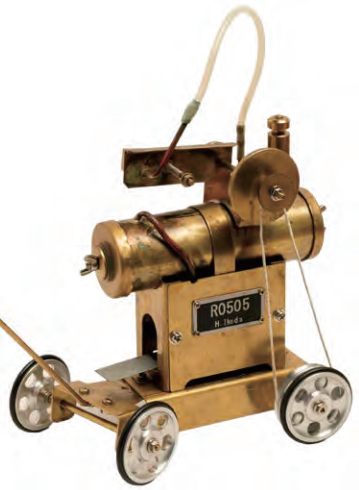
工芸の醍醐味の一つはつくったものが使えるという点です。使う人、使う場面を想像して使い勝手の良さを追求してマグカップを製作します。

●マグカップ

素材に合わせた加工技術

金属

金属の塑性変形に注目したオリジナルスプーン製作、金属加工をした上で外燃機関としてのエネルギー変換も学ぶスチームカーの製作などを体験します。



●ネクタイピン　●オリジナルスプーン　●スチームカー

焔の工芸製作体験

ガラス

ガラス棒をバーナーで熔かしてトンボ玉を作り、オリジナルのアクセサリーに仕立てます。何度も練習してガラスが熔ける速度やタイミング、色の組み合わせの感覚を掴み、理想のトンボ玉を生み出します。

みんなの工作室『松林工房』

私達が普通科専一校として新たな出発を決定したとき、115 年も続いた私達の工業教育は、普通科専一校になって、そのほとんどの貴重な施設や設備をやむなく処分しました。しかしどうしても残しておきたいいくつかがありました。それで私達はどうしたか。
かつて日本一の充実した実験実習施設設備とまでいわれたそのなかから、最も枢要な部分をたった一つの部屋に全部押し込めて残した宝物のような部屋があります。それはピカピカの新品はありません。しかし皆年季の入った遣い勝手の良い宝物のようなそれが日駒自慢の『松林工房』です。ここには機械・建築・電気電子のすべてのエキスが最小限全部揃っています。そしていつでも何でもできる材料と加工機械がある部屋です。
そこには凄い能力をもったおじさんがひとり駐在しています。それが“松林先生”で、なんでも創ることが出来る“村の鍛冶や”みたいなひとです。このひと大変元気なはなし好きな技術屋、すごいおじさんです。遊びにいってご覧なさい、なんでも注文通りつくってくれますよ。

松林 孝 先生